

## 巻 頭 言

### 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 第18回学術大会に向けて

皆さま、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。この度、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第18回学術大会の大会長を拝命しました藤田医科大学病院薬剤部の山田成樹です。

2024年5月25日（土）、26日（日）の2日間、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第18回学術大会を名古屋市の「名古屋国際会議場」にて開催させていただくことになりました。テーマは「安定と安心の追求」といたしました。

ジェネリック医薬品の現状として、現在約1万1千品目が上市されており伸長しています。また、取引数量及び薬剤費は拡大傾向にあり、2019年では1.6兆円の規模になっています。しかし、ジェネリック医薬品を供給する製薬会社は微減しています。ジェネリック医薬品を扱う全企業のうち、約6割の企業が主にジェネリック医薬品を扱う企業であり、当該企業の品目がジェネリック医薬品全品目の7割5分を占めている現状です。そのため、新型コロナウイルス感染症に伴う医薬品の需要増大、ウクライナ情勢に対する流通不安、各製薬会社における品質管理の不備などの影響で、ジェネリック医薬品の不安定な供給が継続しており、治療に関して大きな問題となっております。

また、バイオシミラーに関しては、厚生労働省「医薬品価格調査」において数量ベースで80%以上置き換わった成分数は18.8%であり、全体の市場規模は約755億円となっています（2021年度）。バイオシミラーに対しては、互換性と代替性の問題、医療従事者や患者における認知度の問題などが影響していると思われます。これらの状況のもと、第四次医療費適正化計画（2024～2029年度）においては、「医療の効果的な提供」の中で「後発医薬品の使用促進」として、「フォーミュラ策定等による更なる取り組みの促進」や「バイオ後続品の目標設定等を踏まえた新たな数値目標の設定」が盛り込まれました。

これらの課題と問題点を今大会では議論し、今後のジェネリック医薬品とバイオシミラーの安定と安心を含めた普及を目指し、今大会のテーマを「安定と安心の追求」といたしました。製薬メーカーや規制当局を含めて幅広く議論したいと考えております。

前回の沖縄大会は非常に盛大な中、閉会されました。名古屋大会も多くの皆さまの参加を心からお待ち申し上げますとともに、「名古屋めし」などを堪能していただきながら、将来のジェネリック医薬品、バイオシミラーの発展を目指していきましょう。

2023年12月

日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会第18回学術大会

大会長 山 田 成 樹

藤田医科大学医学部薬物治療情報学教授  
藤田医科大学病院薬剤部長